



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

季刊
秋号
平成28年10月
Vol.12

特集

- ◆ 史跡「御土居のもみじ苑」開苑
- ◆ 北野天満宮講社大祭「曲水の宴」を初開催
日本の伝統文化を北野天満宮から世界に発信
「KYOTONIPPON FESTIVAL」開催
- ◆ 天神さまと私―菅公ゆかりの「曲水の宴」再興に当たって
有斐斎弘道館館長 濱崎 加奈子

菅公御歌

このたびは
幣もとりあへず手向山
紅葉の錦
神のまにまに

北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国の天満宮・天神社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の乾の地にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満天神」の神号を賜り、さらに朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇められました。今や天満宮・天神社は全国に約一万二千社と広がっています。

寛弘元年（一〇〇四）、一條天皇がはじめて行幸されるに及び、以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けてまいりました。文道大祖・風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されております。そして菅公薨去延喜三年（九〇三）より百年をかけて北野の天神信仰が誕生致しました。

菅公は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民・一般に至るまで「天神さま」と呼ばれ親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の御社殿は慶長十二年（一六〇七）豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神・天神信仰として篤く信仰されています。



【シンボルマーク】
平安京の乾（北西）に位置する北野の地・天門をイメージし、星欠けの三光門（三辰信仰）から星梅鉢を北極星と捉えた星の軌道と、神社の象徴である一の鳥居を描き、北野天満宮の信仰的特徴を捉えたマーク。

（平安京については裏面参考）

表紙写真 — 「紅梅殿別離の庭と曲水の宴」 —

紅梅殿はかつての菅公邸宅に由来するもので、別離の庭とともに『国宝 北野天神縁起絵巻』にも描かれている菅公ゆかりの場である。今秋、旧儀の復興にあたり、平安王朝文化をよみがえらせ、菅公が活躍された往時を偲ぶ「北野天満宮 曲水の宴」を再興する。

御挨拶

裏千家千玄室大宗匠ご臨席、曲水の宴開催に向けて

錦秋、色鮮やかな紅葉が、和と歴史・文化の古都京都を彩る季節となりました。皆様には、ご健勝でお過ごしのこととご拝察申し上げます。

昨年当宮の「史跡御土居のみじ苑」は、JR東海「そうだ京都、行こう。」のメイン会場として期間中全国より十数万人もの拝観を頂きました。史跡御土居の紅葉は今や京都の紅葉の名所としての評価も高く、今秋も大勢の拝観者を見込んでおります。皆様のご観覧を心よりお待ちしております。

扱、平安京の乾・天門に鎮座します北野天満宮は、御祭神菅原道真公の御神意をお慰めする千二百二十五年半萬燈祭に向けてここ数年来、境内整備事業と共に、北野天満宮の日本文化への影響、また創建以来の信仰の歴史等について調査・研究を行い、古来より伝わる旧儀を再興致して参りました。

去る八月一日から十四日には、本年初めて北野御手洗祭を再興致しましたところ、清々しい御手洗川の足つけ神事に予想を上回る多数のご参列を賜りました。また十二日から十四日には国宝御本殿石の間通り抜け特別拝観を実施致し、荘厳なる佇まい、虫干しとして展覧した御神宝、豪華な装飾等は大変好評を得ました。

本年は「京の七夕」北野天満宮・北野紙屋川会場として正式に参画致しましたが、来年以降更に充実・発展した北野御手洗祭を斎行致す所存でございます。

また、いよいよ整備が完了致します境内西側に広がる紅梅殿別離の庭では、十一月三日に裏千家千玄室大宗匠来臨のもと斎行致します北野天満宮講社大祭に併せ、御祭神菅原道真公の活躍された平安時代往時の曲水の宴を復元し、「北野天満宮曲水の宴」を開催致します。

只今開催に向けて菅公顕彰保存会並びに実行委員会を立ち上げ、漢詩朗詠・白拍子の歌舞等、新たな趣きを加味した曲水の宴を計画致しておりますので、ご期待頂ければ幸いです。

十二月一日には、天正十五年（一五八七）豊臣秀吉公北野大茶湯由縁の献茶祭が本年は表千家堀内宗完宗匠ご奉仕により催されます。更に「文道大祖 風月本主」と仰がれる菅公を祀る当宮の文化発信として十二月三日・四日の両日にわたり、「KYOTO NIPPON FESTIVAL」が開催されます。

今後とも、北野天満宮の歴史・伝統に根ざした祭儀の復興、天神信仰宣揚に努めて参る所存でございますので、皆様にはご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北野天満宮

宮司 橘 重十九



美しく色づいたもみじ苑より御本殿を望む御土居展望所

菅公顕彰

和漢朗詠

北野天満宮 再興 曲水の宴

菅原道真公ゆかりの曲水の宴が千百余年ぶりに甦ります

菅公
顕彰

学問の神様として知られる御祭神菅原道真公（菅公）は、その高い文才を評価されて、幾度も宇多天皇主催の曲水の宴に文人として招かれています。その折に菅公が作られた詩文のいくつかは『菅家文草』に見ることができます。

このたび当宮にて千百余年ぶりに再興する「曲水の宴」においては、菅公を顕彰すべく、『和漢朗詠集』にとられた御詩を、幻の芸である白拍子の舞と朗詠で披露いたします。なおこの朗詠は、宇多天皇の御世に曲水の宴が催された折に菅公が作られたもので、今回が初披露となります。

和漢
朗詠

菅公は「和魂漢才」、すなわち日本古来の心と、伝来の新しい文化や学問の両方を兼ね備えることが必要であると説かれました。

その菅公の精神に学び、このたびの曲水の宴では、和歌だけではなく漢詩を披露する新しい試みをいたします。

朗詠「花時天似醉序」
はなのときはてんせよへるがごとし

我君一日之沢。万機之余。

曲水雖遙。遺塵雖絶。

書巴字而知地勢。思魏文翫風流。

【詩の意味】

「曲水の宴は遙か遠くになり、その名残も絶えてしまっている。巴という字のように曲がりくねった川で、風流韻事を好んだ魏の文帝を思つて雅な遊びを楽しむ」と、曲水の宴を再興した宇多天皇を称える詩の一節。菅公の高い教養がうかがえます。

（菅原道真公『菅家文草』『和漢朗詠集』）

白拍子舞

曲水の宴では、詩の披露と朗詠のほかに、音楽や舞も行われました。この度は平安後期から鎌倉時代にかけて活躍した男装の女性芸能者「白拍子」の舞もお楽しみいただきます。白拍子は曲水と同様、一度は歴史から姿を消した幻の存在です。幻の宴「曲水」と幻の芸「白拍子舞」の嬌艶を、お楽しみください。



北野天満宮 曲水の宴

菅原道真公ゆかりの

曲水の宴を千百余年ぶりに再興

日時／平成二十八年十一月三日（木・祝）

◎小雨決行 ◎荒天時は四日（金）に順延

【第一部】午後二時～（招待者のみ）

【第二部】午後三時半～午後四時半

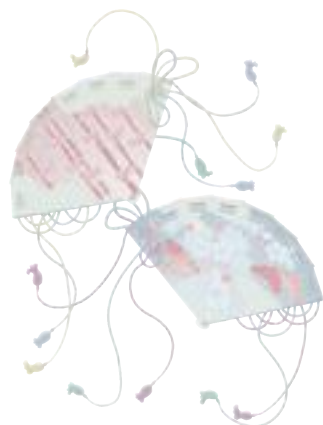
※詳細は当宮ホームページをご覧ください。

場所／紅梅殿別離の庭



次第

- 一、入庭
- 一、朗詠・白拍子「花時天似酔序」
- 一、曲水流觴
- 一、披講
- 一、賜禄
- 一、退庭
- 一、終納の儀



詠者

漢詩

笹岡隆甫（華道末生流笹岡家元）

高崎秀夫（京都銀行取締役会長）

有松遼一（能楽師ワキ方高安流）

山科言親（同志社大学三回生・元伯爵山科家）

和歌

川尾朋子（書家）

竹中美加（歌人）

有松有里（歌人）

奈良茉莉子（京都教育大学四回生）

朗詠

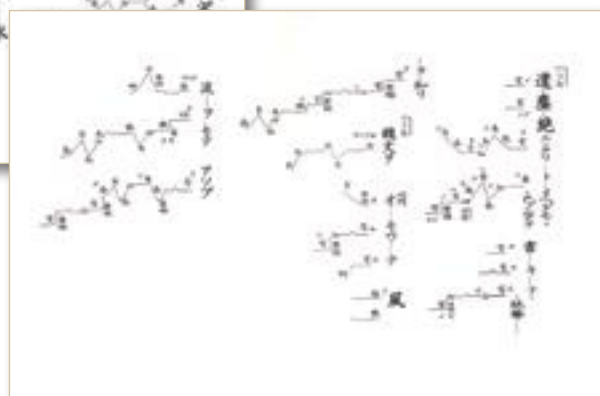
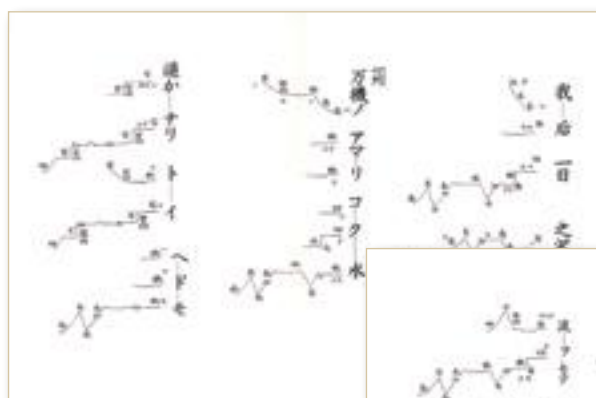
藤村正則 御手洗靖大

白拍子

上杉遙 松原史 石山裕菜

（付物／京都雅楽会）

（協力／今様白拍子研究所）





「北野天満宮 曲水の宴」に寄せて

冷泉 為人



冷泉^{れいぜい} 為人^{たみ} プロフィール

兵庫県加古郡稲美町出身。

昭和十九年生。関西学院大学大学院文学博士課程満期退学。近世絵画専攻。

冷泉家二十五代当主。

公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長。

【著書】『週刊アーティスト・ジャパン（円山応挙）』、『冷泉家蔵番ものがたり』等。その他論文多数。

明石市文化功労賞受賞（平成十年）

京都府文化賞功労賞受賞（平成十九年）

この度、「北野天満宮 曲水の宴」を御再興されますこと誠にありがとうございます。「北野の天神さん」と親しまれたこの御社は、全国の一万余りの天満宮の総本社、天暦元年（九四七）に菅原道真公がこの北野の地に皇城鎮護の神として祀られたことにはじまります。それ以後、千有余年の永きにわたり、天皇や摂関家などの公家、武家、文化人から庶民にいたるまで篤い崇敬を集めてきました。

今日の京都人は、毎月の二十五日を「天神さん」と親しみ、多くの老若男女が参詣し、境内を所せましと多くの露店がならび賑わっています。普段は、中高生の希望校への進学祈願の姿が見られます。その多くは修学旅行生たち。「天神さん」は「学問の神様」として広く知られています。

道真公がお生まれになったのは六月二十五日、大宰府で亡くなられたのが二月二十五日、といずれも二十五日に御縁があります。これらのことから毎月の二十五日が重視されることになったのでしょう。二十五日は北野天満宮にとりましては極めて大事な、特別な縁日です。

江戸時代の初めごろの書物『竹斎』に、この縁日の賑いの様子が、たとえば和歌や連歌、蹴鞠、茶の湯から歌舞音曲など諸芸の遊楽や飲食が活写されています。あるいはこの時に開かれた法楽御会に、後陽成天皇、後水尾天皇、霊元天皇なども和歌をお詠みになっておられたのでしょうか。その時のものと思われる和歌懐紙が今も北野天満宮に多く伝えられています。

今回の宴は、本殿の西側と御土居との間の梅林に、曲水を造り清水を流して開かれます。この宴では道真公に因んで、「花時天似醉序」が朗詠されることになっています。つまりこの北野天満宮の曲水の宴は、「和漢朗詠」という平安貴族の王朝美、文化を復興することです。さらに白拍子の舞も行われます。

十一月三日の「文化の日」に相応しい「曲水の宴」が盛大に挙行されますことをご祈念申し上げます。



北野天満宮・曲水の宴再興を寿ぎて

冷泉 為弘



冷泉 為弘 プロフィール

出生 昭和十六年 京都市生まれ、現在宇治市在住
職歴 京都に本社を置く立石電機（現オムロン）に就職。
品質管理・品質保証、企業の体質革新事務局、環境管理・環境経営などの職務に就き、平成十三年退社。
家歴等
・藤原不比等、鎌足（かまたり）、道長を祖とする藤原北家
・冷泉為尹（ためまさ）の時に分離した、次男持為を祖とする冷泉家（通称下冷泉家、二十代当主
・明治帝の聖勅により創設された宮中詠進和歌の会「向陽会」会長（現職）
・藤原氏の末裔の会「藤商会」常任参与（現職）

曲水の宴は、中国の水辺の禊ぎの風習に盃を流す宴が加わったものといわれ、永和九年（三五三年）三月に会稽山の蘭亭で名士四十一名を招き絲竹管弦も交えて催したという史実（王羲之の蘭亭序）が伝わっている。わが国でも顕宗天皇元年（四八五）三月に宮廷の儀式として斎行されたと『日本書紀』に記述されている。そして、平安時代に和歌の花が咲くと朝廷や公家の間で栄え、京都御所の御常御殿にも曲水の宴の襖絵があることより折々に開かれていたと推察できる。その宮中行事の中で道真公が最も楽しみとされていた流觴曲水の宴が、この度、北野天満宮にて再興されることは大慶の極みであります。

翻ってその昔、上皇、道真公、醍醐帝の御代は和歌の世界も華やき歌会も益々増え、ある三月三日の夜、紀貫之が紀友則と談義し「内裏の詩宴の曲水宴」を模し歌會を催す話が纏まり、詠題も漢詩から『花浮春水』（水に花が浮かぶ様子）を詠んだと伝わっています。

道真公も宇多天皇の御代の寛平二年（八九〇年）三月三日宮中の曲水の宴に参宴との史実もあり、次の漢詩を詠まれたとのこと。「風向になげうち渡りて 海濱に臥せりき 憐れむべし…中略…桂殿 廻流の水 遙かに想ふ 蘭亭 晩景の春（以下略）」。

このような歴史の重みと時空を超えて此度、道真公の御前にて、北野天満宮の橘宮司のもと神職・職員各位、数多の崇敬者等が、いにしへの夢の場に寄合、愛し羽觴・白拍子の舞や歌人の題詠のかし姿、そして場を流れる風の色や樹々の声をこき交せて、皆様も「あな清し、美し、愉し」と思う平安の昔に身を置き、うつろふ時を過ごされては如何でしょうか。そして、この宴がこれよりの時世を弥栄に継承され、道真公の御神徳・御神威が遍く諸人に賜ることを念じてやみません。



菅公ゆかりの「曲水の宴」再興に当たって

濱崎加奈子氏（有斐斎弘道館館長）を迎え、橘宮司 特別対談

「再興は菅公を顕彰し、天神信仰発揚のため」 橘宮司
「すべてが天満宮仕様の特別な曲水の宴」 濱崎氏

今号は、当宮での曲水の宴再興に当たって様々ご尽力賜った歌人で、伝統文化に造詣の深い専修大学准教授の濱崎加奈子氏を招き、橘重十九宮司と再興への思いなどについて多方面から語り合って頂いた。

橘 この度は多々お世話になり感謝致しております。菅公が天皇の招きで度々参加されたことのある曲水の宴の再興は、長く胸の内に温めていたもので実現することになり大変うれしいです。文道の大祖 風月の本主と崇められた菅公を顕彰し、その素晴らしさを知ってもらい、その精神をもっと広めていきたいというのが本音であり、そうすることが全国一万二千社を数える「天神さん」の総本社としての責務だと思っっているんですよ。

濱崎 宮司さまのお話を伺っていると、菅公に対する思いがひしひし伝わってきます。曲水の宴の復興というのは、大変よいことだと思います。曲水の宴は、古代中国で行われていた水辺で体を清める行事に由来し、それが盃を流すこと（流觴）と賦詩を伴って宴の形式となって日本に伝えられた、というわけです。

橘 平安時代に盛んに行なわれたんですね。

濱崎 そうです。最も多く開催されたのが桓武天皇の御代で、確認できるだけでも十回あります。しかし、曲水の宴が好きな天皇ばかりでなく桓武天皇が亡くなられた後、平城天皇によって停止され、しばらく行われなかったのですが、約八十年後の宇多天皇の御代になって復活します。宇多天皇は、上皇になられてからも催され



濱崎加奈子氏



曲水の宴が催される紅梅殿別離の庭

るほど好きだったようです。

橘 菅公は宇多天皇に重用され、とんとん拍子に出世されます。もちろん、天皇ご自身がその才能を見抜かれてのことだと思えます。

濱崎 確認できるものだけでも菅公は、寛平二年から四年（八九〇―八九二）、昌泰二年（八九九）の四回にわたって参加されていますが、いずれも宇多天皇が主宰されたものです。菅公が「文人」として参加されていることから宮司さんが仰られているごとく、その才を高く評価されていたのだと思います。

橘 まさしく文道の大祖であり、うれしく思います。ところで、曲水の宴の史料はたくさん残っているのでしょうか。

濱崎 そんなに詳しく書いたものはありません。次第が残っているものもあります。それが一定ではないのです。しかし、要はお酒を飲み、歌を詠んだり、楽を聞いたり、舞を見たりなのですが、順序が入れ替わったり、記録にないだけかもしれないんですが、そういった芸能が書かれてない時もあります。でも楽しい宴であったことは間違いありません。

橘 当宮での再興は、流れている間に歌あり、杯あり、舞いありのですね。

濱崎 ええ。実は菅公が参加された当時は、こうした形のものではなかったと思います。歌を詠んで食事をし、翌日場合によっては詩を披露したり、といった感じなので杯が流れてくる間に、なんてことはなかったと思います。そうなるのはもつと時代が下がり、室町ごろからではないでしょうか。でも、曲水の宴ですから再興するには、参拝者の方に優雅な気持ちに浸ってもらわなければなりませんので華やかな形にしたわけです。でも、和歌だけでなく漢詩を取り入れている点などは当時の形にこだわった天満宮独自のものなんです。しかもその漢詩は、菅公が曲水の折に創られた詩文です。実は『菅家文章』には、曲水の宴の時に創られた詩文が幾つか残されていて、今回朗詠で歌われるのもその一つなんです。

橘 どのような漢詩なのでしょうか？



濱崎加奈子氏と橘宮司

濱崎 読み下せば「我が君^{きみ}一日の沢^{たく}、万機の余、曲水^{きょすい}遙かなりといえども、遺塵^{いじん}絶えんたりといえども、巴^はの字を書きて地勢を知り、魏文^{ぎぶん}を思うて風流^{ふうりゅう}を翫^{もてあそ}ぶ」というものです。宇多天皇が曲水を再興された時に菅公がお創りになった詩の序文ですが、曲水という言葉が入っていますし、ぴつたりだと思つて選んだのですよ。

橘 いいですね。曲水の宴の再興を寿ぐ内容で、菅公が曲水の宴のために創られた、とあつては、他所にはない、まさに天満宮で曲水を執り行うにふさわしい漢詩といえます。それに和歌もあるということですから和漢の朗詠となります。これをみても「和魂漢才」を提唱された菅公を偲ぶにふさわしいものといえましょう。

濱崎 この漢詩に雅楽の方に節をつけて頂き、今、猛特訓中なんです。もう一つ、今回の曲水には白拍子（平安後期から鎌倉にかけて活躍した男装の女性芸能者）を登場させることにしています。白拍子が曲水に参加したというのは記録には見られませんが、曲水の宴にはメーンとなる流觴と賦詩のほかにも余興として音楽や舞いが必須なんです。平安末期から鎌倉初期にかけては曲水の宴はあまり行われていませんが、例えば九条良経（兼実の息子）によつて曲水の宴の復活が計画されています。実際には良経の急死によつて、開かれなかったのですが、もしこの曲水の宴が行われていたならば白拍子が余興として招かれていた可能性がある、と私は思っています。白拍子は漢詩で舞ったという記録もありますから間違いないです。ですから、今回、余興として漢詩の朗詠と白拍子舞を入れることにしたのです。これによつて堅苦しさを和らげ、貴族の遊びを目的とする宴であつたことを再現するつもりです。ただ、漢詩の朗詠で白拍子舞が行われるのは少なくとも近年では本邦初なんです。先ほども申しましたように節が出来たばかりで、猛特訓中です。雅楽の中で「朗詠」はありますが、譜面が残っているものはほとんどないんです。今回作つたものは、残っていたものを参考にして特別に天満宮の曲水の宴のために創つたものなんです。

橘 益々いいですね。一見何でもありのように見えて、押さえるところはきちんと押さえてある、ということ、ご苦労をかけていると思います。もう一つ、私どもが北野天満宮で曲水の宴を復興するに至つたのには、それなりの理由があるんですよ。古来、都の北西、衣笠山から湧き出た清水は、松葉川（西大宮川）を経て天満宮の神域を流れて清められ、やがて聖水となつて当時の御所の御用水として使われ



北野天神縁起絵巻 卷三「紅梅殿別離の段」

てきたと伝えられていますから…。

濱崎 まさしく道真公ゆかりの曲水の宴ということになりますね。

橘 一時の着想で復興したのではない、ということを知って頂ければと思います。

濱崎 先ほど来、宮司さまが仰られるように今回の曲水の宴は天神信仰を全国に発信するには大変によい機会になると思います。ただ、それだけではなく、この催しを通じ日本の歴史や文化を知ること繋がるかと期待しています。活字で読んでもなかなか理解出来ないことが、実際に目で見て、耳で聞くことによつて、わかることがあるのだと思います。とくに若い人たちに期待しています。そういう意味では教育の場でもあると思いますので、今回、高校生や大学生にも参加してもらおうと頑張っているところです。天満宮で、年に一度、当時の雅な装束を身に着け、歌を詠む、なんてことになれば素晴らしいと思っています。

橘 それこそ、菅公がお喜びになると思います。

濱崎 菅公の邸宅を模した紅梅殿と別離の庭が、こんな形で使われるのは初めてでしょうか。

橘 紅梅殿の柿落しは市川海老蔵丈にして頂きましたが、神社側としては、この曲水の宴をもって別離の庭・紅梅殿全体として完成のお披露目と考えています。ですから十一月三日は二部制とし、一部では裏千家千玄室大宗匠のご来臨を賜つて齋行する天満宮講社大祭に参列された講社員の方々にまずご披露し、この後、二部には一般参拝者の方々に見て頂くことにしています。私も当日の一応の流れは承知していますが、先生のお話を聞いていて、どのような曲水の宴になるか、楽しみです。

濱崎 それは携わっている私どもとしても同じことです。これを契機として来年以降も曲水の宴が続ぎ、さらによいものになっていくことを期待してやみません。

橘 もちろん、これからもずっと継承していく所存です。冒頭にも申しましたように、菅公の素晴らしさを、こうした催しを始めあらゆる機会を捉えてもつともっと発信していかねばならないと考えています。本日はありがとうございました。

濱崎加奈子（はまさき かなこ）
京都大学文学部卒業。東京大学大学院修了。学術博士。
公益財団法人有斐斎弘道館館長、伝統文化プロデュース
連代表、専修大学准教授、同志社大学特別講師。『天満
宮報』献詠選者。「北野天満宮曲水の宴」保存会役員。

錦秋の史跡「御土居のもみじ苑」 本年も十月二十五日より開苑

◎もみじ苑公開 〓十月二十五日(火)〓十二月四日(日) 午前九時〓午後四時
◎もみじ苑ライトアップ(夜間特別拝観)

〓十一月十二日(土)〓十二月四日(日) 日没〓午後八時

◎入苑料 〓大人 七〇〇円・こども 三五〇円(茶菓子付)

昨年は、JR東海「そうだ京都、行こう。」キャンペーンのメイン会場に選ばれた当宮史跡「御土居のもみじ苑」。全国からの多くの参拝者・観光客が来宮し、大いに盛り上がった。

本年も十月二十五日から開苑。恒例となったもみじ苑ライトアップと境内夜間特別拝観は十一月十二日から実施。

今回は紅梅殿前の庭園も一段と美しさを増す中、王朝文化の華開いた平安の御代を再興して、十一月三日に「天満宮講社大祭・曲水の宴」を初開催。当宮崇敬会である天満宮講社会員を招待し、往時を偲ぶ華やかな宴を催す。

また最終日の十二月三日・四日には、京都市などが主催する「KYOTONIPPONFESTIVAL」を当宮で開催。来る二〇二〇年開催の東京オリ



ンピックに向けて、日本国内のみならず、海外にも日本文化を発信すべく、京都から日本全体を盛り上げていくことを目的に行う一大フェスティバルであり、二日間に亘り、文化・音楽・食をテーマに様々なイベントを実施する。

恒例のもみじ苑特別奉納行事と併せ、菅公ゆかりの紅葉とともに、神社をさらに盛り上げる。



◆史跡 御土居とは

境内西側に広がる「史跡 御土居」は、天正十九年（一五九二）豊臣秀吉公が洛中洛外の境界として、また水防のために築いた土塁のことである。

現在でもかつてからの自然林が残存し、四季折々の美しさを感じる事ができる場所である。

なかでも、秋の紅葉は菅公がこよなく愛でられた梅と同様に御緑深き樹木で、御土居一带におよそ三〇〇本。樹齢三五〇年から四〇〇年に及ぶ古木の姿を残し、菅公の御神徳を偲ぶがごとく鮮やかに季節を彩っている。



もみじ苑公開期間中の主な祭典・行事

10月25日(火)	終日	御縁日	境内
10月29日(土)	午後2時	余香祭・献詠歌被講式	御本殿
11月3日(木・祝)	午後1時半	天満宮講社大祭・曲水の宴	別離の庭
11月5日(土)	午後1時	連歌奉納 京都連歌の会	紅梅殿
11月12日(土)	午後5時	日本舞踊奉納 上七軒歌舞会	御土居舞台
11月13日(日)	午後6時	和太鼓奉納 神若会 北野天神太鼓会	紅梅殿
11月19日(土)	午後5時	京都三大学合同交響楽団アンサンブル	紅梅殿
11月20日(日)	午後3時	北野天神もみじ寄席 露の五郎兵衛一門 社務所大広間	紅梅殿
11月20日(日)	午後5時	演舞奉納 京都文教大学よさこいサークル風竜舞伝	紅梅殿
11月20日(日)	午後6時	和太鼓奉納 神若会 北野天神太鼓会	紅梅殿
11月23日(水・祝)	午前10時	新嘗祭	御本殿
11月23日(水・祝)	午後2時	演武奉納 柔術天神真楊流	神楽殿
11月25日(金)	終日	御縁日	境内
11月26日(土)	午後5時	オカリナ・和歌阿武野逢世・鈴江先子	紅梅殿
11月27日(日)	午後6時	和太鼓奉納 神若会 北野天神太鼓会	紅梅殿
11月27日(日)	午後11時	御茶壺奉納 献茶告祭・口切式	御本殿
11月27日(日)	午後5時	演舞奉納 同志社女子大学 京炎そでふれ花風姿	紅梅殿
12月1日(木)	午前10時	献茶祭(堀内長生庵 堀内宗完宗匠ご奉仕)	御本殿ほか
12月3日(土)	終日	KYOTO NIPPON FESTIVAL	境内
12月4日(日)	終日	Autumn Leaves 2016	境内

※都合により行事の変更・追加の可能性があります。





KYOTO NIPPON FESTIVAL

Autumn Leaves 2016
12.03 sat. / 04 sun.

日本文化の中心地・京都。
その文化の礎となった天神信仰発祥の
北野天満宮を舞台に、世界に発信する
文化・食・音楽のフェスティバルを開催。



共同記者会見の様相

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、日本文化を世界に発信し、京都の魅力を国内外に伝えるべく、日本の伝統文化と音楽を融合させたフェスティバル「KYOTO NIPPON FESTIVAL」を、全国約一万二千社の天満宮・天神社の総本社北野天満宮を舞台に、今秋開催する。

京都市・株式会社ソニーミュージックエンタテインメント・華道家元池坊・京都吉兆・立命館大学・北野天満宮などで構成する実行委員会が主催し、分野の垣根を越えた新たな京都の行事として展開する。

開催は12月3・4の両日。北野天満宮と上七軒歌舞練場を会場に繰り広げられ、文化・食・音楽を中心にした各部門のエリアが境内一円に設けられる。

音楽部門では、紅梅殿や神楽殿を舞台に2日間で計15組以上の著名なシンガーソングライターや歌手、女優、作詞家らが出演し、食の部門では、京都吉兆のプロデュースのもと中ノ森広場に約20の和・フレンチ・イタリアン・中華などの名店を並べ、食べるだけでなく体験コーナーなども設置。さらに文化部門では、12月3日のオープニングセレモニーとして華道家元池坊の次期家元池坊専好氏によるいけばな披露や体験教室、立命館大学による漢字体験のワークショップなども行われる。

会場となる当宮は、平安京の最も重要な北西（乾）の方角、天門に鎮座する天神信仰発祥の神社であり、菅原道真公（菅公）を御祭神にお祀りする。

学問・文化・芸能の神様として信仰される菅公は「文道大祖 風月本主」と崇められ、菅公が生涯一貫して大切にされた「和魂漢才」の精神は、日本人の心の指針となって現代に受け継がれている。

このような日本文化の礎となった天神信仰発祥地・北野から世界に向けて、わが国の伝統・文化・歴史を広く発信することにより、更なる京都の活性化を図るのが、「KYOTO NIPPON FESTIVAL」開催の骨子である。

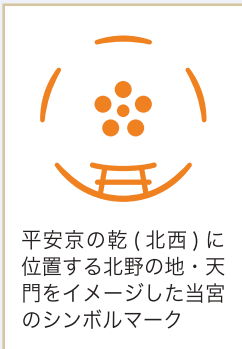


左より 池坊美佳氏・橘宮司・門川京都市長・妹尾取締役・徳岡邦夫氏

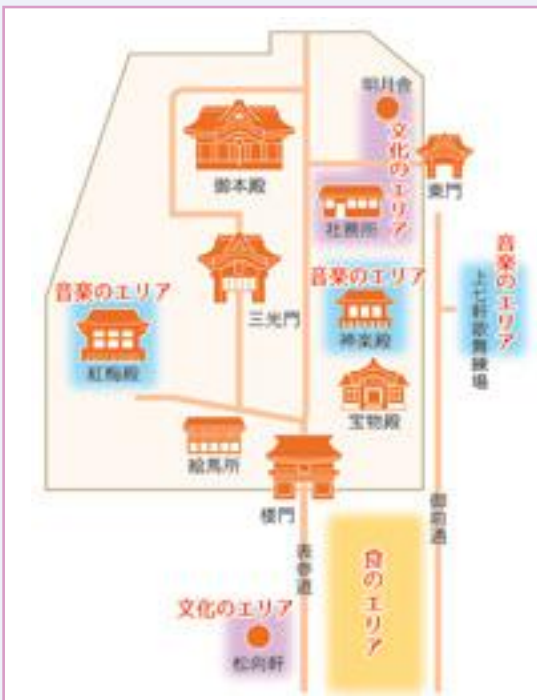


もろじょう おおたまきひら
 平安時代の歌人で文章博士の大江山衡が寛弘九年（1012）に天神を祀った願文の中に出てくる言葉。
 学問や詩歌の祖神として菅公を称えた言葉であり、天神信仰の源として現在も北野天満宮の楼門に扁
 額として掲げられている。

また、京都吉兆の徳岡邦夫社長は「東京オリンピックの開催が決まり、海外からのお客さんが増えつつある中、食も含めて日本文化の本物を伝えていかねば、と思っている。また、国内の若い世代にも本物の文化を伝えていくのが使命だ」と話し、華道家元池坊の池坊美佳青年部代表は「池坊は来年創設555年という節目の年。この催しを通じて一人でも多くの方々に京都の伝統文化の素晴らしさを知って頂ければ」と力強く挨拶した。



平安京の最も重要な北西（乾）の方角に鎮座する北野天満宮



歴史的文化イベント、
秀吉公「北野大茶湯」開催地
北野天満宮境内一円、上七軒歌舞練場が会場

この場所は、天正15年（1587）豊臣秀吉公によって千利休・今井宗久・津田宗及等天下の茶人が参加して催された、史上最大の歴史的文化的イベントと云われる「北野大茶湯」の開催された場所である。

開催会場は境内全域で、菅公ゆかりの紅梅殿や神楽殿、普段見せることのない茶室や社務所を使用し、音楽コンサートや文化的ワークショップなどを行う。また境内南側に広がる北野大茶湯跡地では、京都の老舗店が出店し、食文化を発信する。

歴史的・文化的事業が行われた北野大茶湯の場所は、日本の伝統文化を発信する本行事に相応しい会場である。

菅公ゆかりの紅梅殿・神楽殿で奏でる音楽の共演

■北野天満宮 紅梅殿

12月3日(土) 開場 16:30 開演 17:00

大橋トリオ／片平里菜／川畑 要 (CHEMISTRY)

12月4日(日) 開場 16:30 開演 17:00

安藤裕子／bird／向井秀徳アコースティック & エレクトリック



大橋トリオ

片平里菜

川畑 要 (CHEMISTRY)

安藤裕子

bird

向井秀徳

■上七軒歌舞練場

12月3日(土) 開場 18:00 開演 18:30

「松本隆の世界 ～風のコトダマ～ 京都 session」

プロデュース：藤舎貴生 (横笛奏者)

出演：松本隆 (作詞家)／若村麻由美 (役者)／クミコ (シンガー)／藤舎貴生 (横笛奏者)

12月4日(日)〈第一部〉開場 14:00 開演 14:30 〈第二部〉開場 18:00 開演 18:30

「矢野顕子 ふたりでジャンボリー」 ゲスト：上妻宏光



松本 隆

若村麻由美

クミコ

藤舎貴生

矢野顕子

上妻宏光

■北野天満宮 神楽殿 12月3日(土)、12月4日(日)ともに後日発表



Music

出演アーティスト

豊臣秀吉公が催した「北野大茶湯」跡地で繰り広げられる食の祭典



『食文化を世界に発信』

2020年 東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて今後インバウンド事業が増えてくることと思います。我々はオリンピック前からオリンピック後まで、世界に求め続けられる国になるべきであると考え、色々な角度から日本を知ってもらおう取り組みを行うこととなりました。

今回開催致しますKYOTO NIPPON FESTIVALは、本物の日本の伝統文化・食・音楽を集め世界に発信するため、同じ志を持った人々が集結し、今年から毎年規模を拡大して開催して参ります。このKYOTO NIPPON FESTIVALを学問の神様・菅原道真公を祀る全国天満宮の総本社・北野天満宮から発信できることは、日本人にとって誇るべきことだと思っております。

お客様に喜んで頂けるフェスティバルになるよう頑張っております。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。

京都吉兆 代表取締役社長
徳岡 邦夫



北野大茶湯図 天正 15 年 (1587) の北野大茶会の絵図



Food

日本文化の礎となった天神信仰発祥の北野から発信する日本の心

『心を伝える』

池坊の家元と、いけばなに関することが初めて歴史上の文献に記されてから、2017年で555年を迎えます。池坊の555年の歴史は絶えず変化をとげ、未来を創造し続けてきました。池坊の理念、それは、草木それぞれが持つ美しさを感じ、敬虔な心をよせて花をいけることで、自らの心も磨かれるところにあります。



今回のKYOTO NIPPON FESTIVALでは、華道家元池坊 次期家元 池坊専好が、オープニングで池坊いけばなの真髄を披露いたします。そしてワークショップでは、池坊いけばな体験教室を開催します。

われわれが伝えたい心、それは、花をいける喜びです。奥深さと温かさのある伝統文化『心でいける 池坊いけばな』を体験していただき、花をいける喜びを全ての方々に感じていただきます。

日本を代表する伝統文化の一つである『いけばな』、日本の豊かな心の文化を未来に伝え続けます。

華道家元 池坊



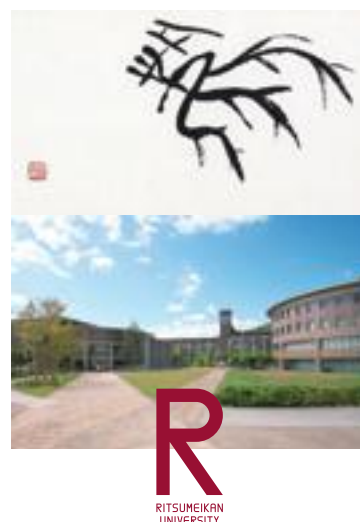
池坊

『京都とともに』

立命館の歩みは、近代日本の代表的政治家・西園寺公望が、20歳の若さで私塾「立命館」を開設したことに始まります。建学の精神は「自由と清新」。以来、常にイノベティブであることを目指してまいりました。京都で生まれ、京都に育てていただいた立命館。「京都らしさ」を守り、育て、世界に発信することが、私たちの使命です。

今回「KYOTO NIPPON FESTIVAL」では、文化勲章受章者故・白川静の名を冠した白川静記念東洋文字文化研究所を擁する立命館大学ならではの漢字ワークショップを開催。楽しみながら漢字に親しんでいただく機会を提供します。

立命館大学



R
RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

北野天満宮の残材から生まれた日本最古の花街・上七軒



上七軒
歌舞練場



『日本の伝統文化を今に伝える場所で』

上七軒（かみしちけん）は、京都市上京区真盛町から社家長屋町に位置する日本最古の花街。歌舞練場は、花街にとっての中心的な存在で、京都の花街には必ずあり、歌舞練場というのは、練習の成果を披露する一芸を練る場所といわれる。

建物自体は、明治の中頃に建てられ、増改築などを繰り返して、昭和26年には現在の姿になったという。

400席超という規模のある木造の劇場が現存している例は国内でも少ない。



御手洗川にかかる橋の渡始め

「京の七夕」に正式参画し 「北野七夕祭」を開催

御本殿石の間通り抜け・御手洗川足つけ燈明神事など… 神事・行事多彩

京都の新しい風物詩「京の七夕」に本年から「北野天満宮・北野紙屋川会場」として正式参画したことに伴い、その中核となる当宮では八月一日から十四日まで「みんなの願いを天神様に届けよう」をテーマとして「北野七夕祭」を開催した。史跡御土居のライトアップ、国宝御本殿の石の間通り抜け神事、再興した御手洗川での足つけ燈明神事、北野天神泣き相撲、学業大祭と祈願絵馬焼納式、七夕五色百人一首など期間中多彩な神事・行事が繰り広げられ、多くの参拝者で賑わった。

御手洗川渡始式に

地域の方々ら約五百人が参列

初日の八月一日、北野界限の地域住民や関係者約五百人が参加し、オープニング行事「御手洗川渡始式」が行われた。かけつけた門川大作京都市長は「旧暦の七夕にちなんで京の七夕を始め七十年。昨年から協賛頂いている北野天満宮が今年、神事を再興され、正式に北野紙屋川会場として加わって下さり、大変ありがたい」と挨拶。橋重十九宮司も「日本文化の中心である京都。それには天神信仰も深く関わってきた。地域の皆さまの協力によって京の七夕の会場として参画することができ、大変うれしい。本日は再興した御手洗川で身を清め、御本殿の石の間を通り抜けて頂き暑い夏を乗り切ってほしい」と、開会の言葉を述べた。

第二回「北野天神泣き相撲」開催

子ども泣き、大人大笑い

八月六日には「北野天神泣き相撲」が神楽殿で行われ、二歳までの赤ちゃん百人が「泣いたら勝ち」の勝負に挑み、元気いっぱ



御本殿を参拝する門川京都市長・寺田京都市会議員ら



総勢五百人による行列



地域の方々が多数参列



白熱の勝負！五色百人一首大会



すこやかな成長を願い、泣き相撲開催

いの泣き声を神前に届けた。

赤ちゃんは、かわいらしい化粧まわしに鉢巻き姿で、お母さんらに抱かれて登場。「はっつけよい」の行司の掛け声で、赤ちゃん同士が顔合わせをした。すぐに泣き出して勝ち名乗りを受ける子がいる一方、両方同時に泣き出したり、まったく泣かずに引分けとなるケースも。赤ちゃんの泣き声が境内いっぱいにこだましたが、見守る観衆は大爆笑だった。

行司などによる判定により、横綱・大関・関脇・小結を始め各賞が決められたほか、参加した赤ちゃん全員に本人の手形や足形入りの賞状が贈られた。

七夕五色百人一首北野天満宮大会 五十人が参加、熱戦を展開

「第一回七夕五色百人一首北野天満宮大会」は八月七日、社務所大広間に小学生五十人が参加して開かれた。

京都府内の教職員らで組織する「TOS S いちばん星」の主催。五色百人一首とは青・緑・黄・橙・桃の五色（各二十枚）からつけられたもので、二人で二十枚の札を取り合うため一試合三分程度とスピーディーな進行が特徴。

この日は青札のみによって行われ、各上位者によるトーナメント戦をして順位を決め、先生が読み札を読みだした途端、すかさず畳の上の取り札を手で払う白熱した展開が見られ、試合は大いに盛り上がった。

「御本殿石の間通り抜け神事」に多くの参列 「神々しさに感動」と参拝者

初の国宝御本殿の特別公開「御本殿石の間通り抜け神事」は、八月十二日から十四日の三日間限定で行われ、連日多くの参拝者が訪れた。

石の間は社殿内の拝殿と本殿を結ぶ空間。これまで神職のほか



真剣な表情でかるたとにらめっこ



元気な泣き声を天神さまに



約二千人が観覧 泣き相撲会場の様子



学業成就・入試合格を願い、学業大祭齋行



およそ五千人もの参拝者が訪れた御本殿石の間

最終日の八月十四日は、昨年六十三年ぶりに再興した「学業大祭」が本殿で斎行され、昨年を大幅に上回る約五百人の参列があり、子供のすこやかな成長と学業向上を祈願した。

夏休みやお盆の時期と重なったこともあり、本殿内は子どもやその家族で身動き取れないほどの参列。加藤権宮司が祝詞を奏上、次に代表の中学生の玉串拝礼に合わせて参列者全員がお参りをし、学業成績が上がるよう祈りを捧げた。

また午後一時からは、昨年度一年間に入試の合格、学業成績の向上など様々な願いを込めて絵馬掛所に奉納された数十万枚の祈願絵馬と、京の七夕期間中に奉納された七夕祈禱木を焚き上げ、願掛けされた人たちの諸願成就・無病息災を願った。

「学業大祭」に五百人が参列 あわせて祈願絵馬焼納式を斎行



連日多くの参拝者が訪れた足つけ神事

参拝者は「普段は入ることができない神域を歩かせて頂き、神々しさに感動しました」と話していた。

なお、三日の間午前九時からは御手洗川の足つけ燈明神事も行われ、朝から御手洗川周辺はにぎわいを見せた。

は立ち入ることが出来なかったが、「北野御手水神事」の復興として、かつて行われていた御神宝・御装束の虫干しにあわせ、石の間を通り抜け、参拝（拝観）して頂くため今回初めて公開した。

初日には約数百人の参拝者が並び、御手洗川を五色の願いろうそくに火をかざしながら歩いて心身を清めると共に水みくじを清流に浸し、ろうそくを献燈した後、素足で石の間に入り、神前に参拝した。虫干しされた神宝類に見入りながら通り抜けをした参



焚きあげられる祈願絵馬



五百人の参列者が昇殿



水占みくじに水に浸す参拝者



七夕に願いを込めて



五色のろうそくに火を灯す参列者



横綱「大川 夏澄ちゃん」
大関「丸田 貴映智くん」大関「南 詩葉ちゃん」



京都市立日吉ヶ丘高校相撲部の
皆さんによる土俵入り



笑顔はじける演舞を披露 同志社女子大学京炎そでふれ花風姿

多北 彩野 な七 行夕 事祭



七夕五色百人一首 参加者全員で記念撮影



京都文教大学よさこいサークル風竜舞伝による奉納演舞



華やかに上七軒通で盆踊り行列



上七軒の芸妓さんもお奉仕 七夕団子茶屋



迫力の演奏！北野天神太鼓会 七夕和太鼓コンサート

例祭



斎行された祭典・行事
〈八月～十月〉

厳かに例祭を斎行
皇室の弥栄・国家安泰を祈願

かつて勅祭として執り行われていた北野祭ゆかりの例祭を八月四日午前九時から本殿で、氏子総代を始め神社役員崇敬者ら多数参列のもと厳かに斎行した。

勅祭北野祭は、永延元年（九八七）八月五日、一條天皇の勅使参向・奉幣によって執行されたが、約六十年後、この日が母後の国忌に当たるとして一日早い八月四日が北野祭の祭礼日となり、今の例祭に引き継がれている。

橘宮司の祝詞奏上に引き続き当宮の巫女四人が、菅公五歳の折に詠まれた「美しや紅の色なる梅の花あこが顔にもつけたくぞある」の御歌をもとに元宮内庁楽師の芝祐靖氏が作曲作舞された巫女舞「紅わらべ」を奉奏した。

この後、橘宮司が玉串拝礼し、参列者の代表が次々玉串を捧げ、皇室の弥栄・国家安泰・五穀豊穰・氏子崇敬者の無病息災を祈願した。



新茶奉獻奉告祭

今年の新茶を神前にお供えして茶業の発展を祈る新茶奉獻奉告祭を御縁日の七月二十五日午前十一時から本殿で斎行した。

当宮と御縁深く、新茶を奉獻された宇治・宇治田原・城陽・佐山・京田辺・和束・醍醐・向島・綴喜・山城・南山城・朝宮などの生産地を始め京都市茶業組合などから約五十人の参列のもと、さらなる茶業発展と関係者の家内安全を祈願した。



新茶奉獻奉告祭

土用干し



炎天下、「大福梅」の土用干し

正月の縁起物として親しまれる「大福梅」として使われる梅の実の土用干しが、近畿地方の梅雨明けを待つて七月十九日から始まった。



境内にある約千五百本の梅の木から採取された二・二トンの梅の実が樽で塩漬けにされていたが、この日取り出され、神職・巫女・職員が猛暑の中でムシロを敷いた台の上に広げて乾燥させた。

境内一円に甘酸っぱい梅の香が漂い、参拝者が「よい香り」とささやきながら土用干しの作業を見つめていた。この土用干しは一カ月がかりで行われカラカラに乾燥した梅の実が再び樽で塩漬けにし、十一月に袋詰めされ、事始めの十二月十三日より授与される。

消防訓練

夏の文化財防火運動 境内で消防訓練 社務所では救命法学ぶ

夏の文化財防火運動に合わせた消防訓練が七月十五日午後二時から境内で実施された。



上京消防署と当宮自衛消防隊・翔鸞学区文化財市民レスキュー隊・翔鸞消防分団などから約五十人が参加した。訓練は本殿東北の透塀屋根付近から出火の想定で行われ、本殿内から宝物類が搬出され、消防車による放水が行われるなど迫真の訓練を繰

り広げた。訓練終了後、名畑徹上京消防署長と橘宮司が講評し、文化財防火の大切さを訴えた。

この後社務所大広間において、心肺蘇生法の講習があり、神職・巫女らが上京消防署員からAEDの使い方や心臓マッサージの仕方を学び、参拝者の万が一に備えた。



子どもの感性、キャンパス一杯に広がる 奉納図画展、二百四十八点が入選

奉納図画展



夏休みの恒例となっている奉納図画展が今年も八月十八日から二十八日まで本殿前西廻廊で行われ、幼児から高校生まで七百二十五点の作品が一堂に展示された。

夏休み中に描いた作品を奉納し、子どもたちのすこやかな成長と図画の技術の向上を祈念するもので、六十年の歴史を持つ催し。ザリガニやトウモロコシ、ヒマワリなどの動植物を始め本殿・三光門・うしなど境内を描いた作品が並んだ。子どもの感性があふれた作品が多く、たくさんの方の参拝者が展示作品に見入っていた。

審査は、展示初日の十八日午前九時半から三輪晃久（日本画家）、伊庭新太郎（洋画家）の両先生と橘宮司によって行われ、二百四十八点の入選作が決まった。

【奉納図画展授賞式】

入選者の授賞式は、展示最終日の二十八日午後三時から入選者と保護者が参列して本殿で行なわれた。奉告祭でお祓いを受けた後、入選者の代表が玉串をささげ、参列者全員が図画の技術と学力の向上を祈願した。最後に加藤権宮司が「入選、おめでとう。素晴らしい絵を奉納して頂き、天神さまもきつと喜ばれていると思います。みなさん、目標を持って絵に勉強に励んで下さい」と、励ましの言葉を贈り、一人ずつ賞状・記念品を手渡した。

入選者は次のみなさん。

【天満宮賞】 横山颯亮（京都きらら幼稚園年少）、井上晴貴（北野幼稚園年少）、細川彰斗（太秦幼稚園年中）、竹村帆葉（京都きらら幼稚園年中）、小山祐介（北野幼稚園年長）、米谷ひなの（同）、坂口椿（ジャルダン美術研究所・小学一年）、阿部真理奈（西陣中央小二年）、井上心結（ジャルダン美術研究所・小学三年）、今西璃桜（御室小四年）、渡辺球平（同五年）、松井葵（二条城北小六年）

【京都新聞特別賞】 光安理子（二条城北小六年）

【京都新聞賞】 稲葉美羽梨（北野幼稚園年少）、大原あずみ（愛英西山幼稚園年少）、岩見陵矢（北野幼稚園年中）、安永桜輔（同）、頼金克磨（太秦幼稚園年長）、片山花音（月かげ保育園年長）、北新ゆい（御室小二年）、岩崎光樹（西陣中央小四年）、北村里帆（ジャルダン美術研究所・小学五年）

【上京子供会会長賞】 飛田冴良（京都教育大付属京都小一年）、大原あずさ（名古屋市立西山小三年）

【金賞】 西山碧人（北野幼稚園年少）ほか八十八人

【銀賞】 錦織晴（北野保育園年少）ほか百三十四人



◎審査員の講評

毎年この図画展の審査をしているが、他都市の子どもへの絵とは少し違うようなものを感じる。大げさに言えば京都の感性といったようなもので、意識しなくても自然に出てくるのであろう。とくに色遣いが鮮やかなのには感心する。同じテーマで描いていても、それぞれの受け取り方は違っており、選ぶのに苦労した。ともかく、大人にはない子どもの感性があふれた作品が多かった。

親子ふれあい写生大会

第三十七回親子ふれあい写生大会（上京子ども会育成連絡協議会主催）の入賞者表彰式が七月二十六日午前十時から社務所大広間で行われた。

この写生大会は、五月二十四日府立植物園において児童・保護者ら約六百人の参加のもと行われ、優秀作品二百点（京都府知事賞・京都市長賞・北野天満宮賞など特別賞は二十三点）を選び、この日まで九日間わたり本殿前西廻廊に展示された。

表彰式で加藤権宮司が「受賞を心の支えに学問・技芸・スポーツに励んでください」と、励ましの言葉をおくった。



親子ふれあい 写生大会

華やかに、優雅に「ずいき祭」賑わう

京都の代表的な秋祭りの一つとして知られる「ずいき（瑞饋）祭」が十月一日から五日（后宴祭）まで華やかな中にも厳肅に斎行された。御鳳輦が巡行する神幸祭・還幸祭の沿道では、いつも通り多くの市民や観光客が見守り、御鳳輦が渡られた御旅所を始めその界限には多くの露店が並び、連日参拝者で大賑わいを見せた。

ずいき祭の名は、御祭神が渡られる御旅所にずいき芋など野菜で飾った「ずいき御輿」が奉安されることに由来しており、御鎮座の往時を偲ぶとともに秋の収穫に感謝する祭りとして知られ、京都の代表的な秋祭りの一つともなっている。

神幸祭の一日午前九時半から本殿で菅公の御霊を御鳳輦に遷す出御祭が厳肅に斎行された。午後一時、一の鳥居前から三基の御鳳輦を始め威儀物、供奉者らの祭礼行列が巡行した。夜半まで雨が降り、心配されていた天候も出発時には、まずまずの日和となり、沿道では多くの人が優雅な行列を見守った。御旅所到着後、着御祭を斎行し八乙女が鈴舞と田舞を奉奏した。

御旅所では二日、表千家の三木町宣行宗匠ご奉仕の献茶祭が執り行われ、夕刻には神若会北野天神太鼓会による和太鼓も奉納された。三日は西ノ京七保会による特殊神饌「甲御供」の奉饌、北野天神花傘会による「担い茶屋お披露目茶会」が行われた。

還幸祭の四日は午前十時から御旅所を出御祭を斎行した後、三基の御鳳輦を中心に牛の曳く御羽車、導山、松鉾や梅鉾、八乙女や稚児、花傘や担い茶屋、宮司の乗った馬車など豪華で優雅な長い行列が氏子区域を巡行し、沿道で見守る人々を魅了した。

一方、祭礼の期間中、御旅所に奉安されていた「ずいき御輿」は、四日、西之京瑞饋神輿保存会の人たちの奉仕により巡行、見事な野菜の芸術品ともいえる御輿が沿道の人たちの目をひきつけていた。

ずいき祭



御鳳輦の巡行



北野天神太鼓奉納（三条駐輦所）



八乙女舞の奉奏



献茶祭（表千家 三木町宣行宗匠ご奉仕）



上七軒を通る御羽車



甲御供奉饌



担い茶屋お披露目茶会（御旅所）



花傘と担い茶屋の行列



ずいき御輿

平成二十八年度 ずいき祭稚児奉仕者名簿															
役名															
八乙女															
青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山	青山
璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南	璃南
愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実	愛実
みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその	みその
夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃	夢乃
悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月	悠月
珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以	珠以
水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷	水谷
百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花	百花
西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田	西田
茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜	茜
海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名	海老名
和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸	和幸
川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田	川宿田
奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太	奏太
渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊
陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太	陽太
井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻	井鼻
瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太	瑛太
島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山	島山
凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一	凌一
岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本	岩本
和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真	和真
新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷	新谷
花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾	花綾
服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部	服部
美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠	美悠
岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部	岡部
吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希	吉希
辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田	辻田
望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望
松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本
遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太	遼太
出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水	出水
蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮	蓮
関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本	関本
雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大	雄大
高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡
史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明	史明
丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山	丸山
煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生	煌生
山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下
恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司	恵司

「国宝 北野天神縁起絵巻」を読む

同志社大学名誉教授 竹居明男



「石榴天神」の段

道真公の霊が天台僧尊意のもとに出現し、怨霊調伏の修法の中止を乞う。

「石榴天神」の段

第五巻の第三段は、詞書と画面がそれぞれ三紙にわたり、道真公の霊と天台僧尊意とが対面する場面である。

すなわち菅公逝去後まもなくのある夏の夜、時に四十歳ばかりの「延暦寺第十三座主法性房尊意そんい贈僧正」が比叡山の奥深い自坊で修行中、坊の妻戸が「ほとくと」鳴った。押し開けてみると「菅丞相」の「化来」である。

そこで尊意は持仏堂に請じ入れて「化来」の意図を尋ねると、菅霊は、すでに梵天・帝釈天の許しも得て都に入つて恨みを晴らしたいと思つてゐるのに、尊意の法験によつてかなわないでゐる、たとえ勅宣があつても、年来の師檀の契りに免じて調伏を辞退してほしい、と述べた。これに対し尊意が、「王土（＝帝王の治める国土）」の地に暮らす身としては、勅宣も三度に及べばいいだろうしたらよろしいのでしょうか、と答えると、菅霊の「御気色少し変はりぬ」という。

そして菅霊は、「御喉渴のどかせ給ふらんとて」尊意から勧められた石榴ざくろの実を口に含んで妻戸に吐きかけて退出していった。その石榴は炎となつて妻戸に燃えついていたが、尊意が灑水しすい（＝清浄を念じて、香水をそそぐ

※「国宝 北野天神縁起絵巻」を読むは、今号をもちまして、休載とさせていただきます。

こと）の印を結んで消し止めた。「焦がれたりける妻戸はいまだ本房にぞ侍なり」という文章で本段の詞書は結ばれる（「石榴天神」）。

以上に対応する画面は、中央に中庭の池を配し、右寄りに尊意の房を訪れる束帯姿の菅霊、左寄りの上隅に、請じ入れられた持仏堂での両者対話の場面が「異時同図法」によつて描かれている。紺の濃彩が際立つ池水や遣水の周囲には中島と蓮の葉が目立ち、岸辺に鴛鴦の姿も見える。持仏堂の方は、石榴の実が妻戸に燃え付いて炎をあげているところに尊意が灑水の印を結んでいる緊迫した場面で、菅霊の膝元に数個の石榴の入った折敷おしき（＝角盆の一種）が見え、尊意の指先からは香水が妻戸に向かって放出されている。余談ながら



ら、筆者の小学生時代に、少年雑誌か何かに「日本最古の幽霊の図」として本画面が掲げられていた記憶が今も鮮明に残っている。

さて天台僧の法性房尊意（八六六〜九四〇）は台密に優れ、藤原時平の弟忠平（八八〇〜九四九）の帰依が篤く、忠平及びその一族の仏事を多く担当。醍醐天皇に近侍して加持祈禱を担当し、さらに朱雀天皇の護持僧にもなった。詞書に見える天台座主就任は延長四年（九二六）のことである。

なお本段に相当する内容は、十世紀後半頃の成立とみられる『尊意贈僧正伝』には見えず、その典拠は未詳である。

宮中清涼殿に落雷しようとした際、左大臣時平が太刀を抜いて立ち向かう。

―「清涼殿霹靂」の段―

第四段の詞書は、わずか一紙のみの短いもので

其の時やがて雷電霹靂して、劫初成（劫初は成劫の初め、すなわち世界の成り初め）の時に水・金二輪となりけるあまつぶ（雨粒か。建保本縁起は「あまつひ」）なんども、輝くとぞ覚えし。清涼殿の中には本院のおとど（大臣）只一人、太刀ぬぎかけて、「朝につかえ給ひし時には、我が次にこそ、ものし給ひしか。今日飛神と成り給ふとも、我に所をかでは（措かでは）、ひが事（僻事）にこそ侍らめ」と睨み遣りてぞ立ち給ひたりける。

が全文である。

すなわち、ある時「雷電霹靂」した際、宮中清涼殿において、これを菅霊のしわざとみた「本院のおとど」

こと藤原時平（八七一〜九〇九）は、ただ一人太刀を抜きかけて立ちをはだかり、菅公生前は朝廷において自分の次席ではなかったか、たとえ「飛神」になつておられようとも（「今日飛神と成り給ふとも」の箇所は、建久本では「けふたとひ神に成給ふとも」となっている）、自分には遠慮なさるべきであろうと、言い放つたというのである。

これに対応する画面は、全五紙にわたり、承久本全巻の中でも最も有名な場面の一つで、画面の大半を占める清涼殿に突如不気味な黒雲が湧き下り、今や轟音と四方八方に飛び走るまばゆい稲妻とともに、鬼形の雷神が襲来している、緊迫した場面である。

長押の上に描かれる雷神は、怒髪の上に二本の角を生やし、赤色の裸身に禪をはく。上半身には緑の領巾をまとい、両手に撥を握りしめ、背には連太鼓を負っている、お馴染みのイメージであろう。

いわゆる「吹抜屋台」で描かれた建物の中では、公卿・殿上人たちが上を下への大騒ぎで物陰に隠れたり、転倒して頭を強打したり、あるいは庇もしくは縁から転げ落ちようとする姿が描かれる。右手の庭上には、弓矢を投げ捨て、片方の杵を落としたことにも気づかず一目散に画面右端の門に駆け寄る人々、そして門の下にもすでに避難した人々が見える。

そうした中、長大な画面の左端には、黒雲の下、束帯姿の時平が、抜いた太刀を振りかざして一人雷神に対峙している姿が描かれ、背後には唐衣姿の女房の後ろ姿も見える。内容的にも、また画面構成の上からも、まことに緊張に満ちた名場面と言えよう。

ただ、詞書の限りではいかにも唐突に始まる本エピソードには年月日の明記が無い。延喜四年または同八年の雷鳴の記録との関連を指摘する説もあるが、縁起に先行する歴史書『大鏡』時平伝の同趣の話をみて



「清涼殿霹靂」の段

も、特定の史実を踏まえたものと考えerる必要はないと思われる。そもそも菅公の霊が雷神と観念される直接の契機は、本縁起第六巻で採り上げられる延長八年（九三〇）の宮中清涼殿落雷事件と見るべきであろう。

なお現代人には、雷鳴に抜刀して立ち向かえば、かえって落雷を誘ってしまうのではないかと心配されるが、古来、刀剣類には辟邪（魔よけ）の信仰があったことは多くの「名刀伝説」が物語っている。北野天満宮所蔵の多数の刀剣類の中にも、はるか後世の江戸時代宝暦年間（一七五一〜六三）の短剣に「雷除」の銘が添えられている例があることは興味深い。

天台僧尊意が勅命を受けて参内する際、増水した鴨川を渡って、法験をあらわす。

——「尊意渡河（鴨川渡水）」の段——

第五巻第五段も一紙のみの短い詞書で、前記第三段に登場した法性房尊意贈僧正が主役となる。

其の間、贈僧正、三度の宣旨をかほりて（蒙りて）比叡の山より北闕（＝宮城、皇居）に参り給ひしに、鴨河の洪水も去りのきて、陸地のごとく通り給ひしぞ、法験も目出たく皇威も畏ろしかりし。其の後暫く天神をば有め奉り給ひたりけりとぞ。延喜八年十月の比、菅根卿は新たに神罰を蒙りて、その身は失せにけり。

以上が詞書の全文で、尊意が三度の宣旨を蒙って比叡山を下りて牛車に乗って参内する際、折しも洪水で増加した鴨川の水も左右に退いて陸地のようになり、牛車は難無く通過できたことが前半に語られる。ここでは「法験も目出たく皇威も畏ろし」いことが強調されている。

三紙にわたる画面はこれを主題とし、左右と背後に退きながらも逆巻く流水の中、前簾を巻き上げて香染めの法衣姿の尊意を乗せた牛車が疾駆している。疾走する牛、轆（ろく）に取り付く牛飼男や裸足の僧侶、牛車の後ろで疾走する従者たちの姿が、牛車の車輪の回転や流水の描写と相まって、まことにスピード感あふれる場面となっている。

本エピソードは、やはり前出の『尊意贈僧正伝』に記述が無く、原拠はもとより、史実かどうかも今のところ不明である。

なお絵画化はされないが、詞書後半に見える「菅根卿」とは、参議従四位上藤原菅根（八五六〜九〇八）のことで、早く『江談抄』に菅公との不和を伝える説話があり、縁起では菅公呪詛の陰謀に加わり、また左遷決定直後に内裏に駆けつけた宇多法皇を阻止したとされる人物である。「神罰」と言えば、菅公左遷の首謀者と目された藤原時平の死去は菅根の死去の翌年のことであるが、承久本では第六巻の巻頭で語られることになる。

さて、ここで改めて第五巻第三段以下を通覧してみると、法性房尊意の話（第三・五段）といい、左大臣藤原時平の話（第四段）といい、いずれも菅霊に對峙し、もしくは菅霊をやりこめるような内容になっており、一見すると縁起全体の趣旨からは不相応とうけられかねない面がある。

縁起における、これら諸段の収載意図の解釈は容易ではないが、その背景として、縁起成立期（十二世紀後半ないし末期）の北野天満宮の地位を考慮しなければならぬ。すなわち、十世紀半ばの鎮座以来、同宮は皇室や藤原氏摂関家の崇敬・支援のもと、平安中期の一条天皇朝を経て、祭神の神格は怨霊から善神「天満

天神」へと大きく変貌して行き、かつ当初から天台宗と深い関係をもっており、すでに「王城鎮守の神」の地位を確立していたからである。以上をもつて第五巻が終わる。



「尊意渡河（鴨川渡水）」の段

十二月一日 献茶祭

明治十一年に再興された献茶祭。使用される茶は毎年、山城六郷（木幡・宇治・菟道・伏見・桃山・小倉・八幡・京都・山城）の産地から茶壺に詰めて奉献される。
古式に則り行われる御茶壺奉献祭・口切式から、献茶祭へと続く一連の行事・祭事が執り行われる。



御神前にて献茶される堀内家長生庵堀内宗完宗匠（平成22年）



上七軒歌舞会ご奉仕によるお点前

約四百年前の「北野大茶湯」にちなむ献茶祭が十二月一日、本殿で斎行される。在洛の四家元二宗匠の輪番によるご奉仕が慣例とされ、本年のご奉仕は堀内家長生庵堀内宗完宗匠。社務所や明月舎を始め上七軒歌舞練場などにも茶席が設けられ、絵馬所には「菓匠会」による飾り菓子の展示が行われる。



菓匠会による協賛席（絵馬所）

十二月二十六日

御茶壺奉献祭・口切式

献茶祭で使用される抹茶の原料である碾茶せんちゃが十一月二十六日、山城六郷の茶師によって御茶壺道中で奉献され、本殿において奉献祭を斎行した後、献茶祭保存会役員が茶壺の口を切る口切式が執り行われる



口切式を行う献茶祭保存会役員 山本源兵衛氏



古式ゆかしく御茶壺道中



各産地より納められた御茶壺



十月二十九日 余香祭・献詠歌披講式

『重陽後二日』の名詩を作られた菅公をしのび、十月二十九日、本殿で余香祭が斎行される。祭典では、車座の向陽会会員らが独特の節回しで献詠歌を披講する献詠歌披講式が執り行われる。



十月三十一日 一條天皇行幸始祭

寛弘元年（一〇〇四）に一條天皇が初めて当宮へ行幸された日に当たる十月三十一日、本殿で中祭式にて祭典を執行する。



十二月十三日 大福梅の授与

正月の縁起物として名高い「大福梅」の調製作業を十一月下旬に行い、事始めの十二月十三日から授与を開始する。



十二月二十三日 新嘗祭

その年に収穫された新穀を神前に供えて豊作に感謝する祭典。氏子崇敬者多数参列のもと、大祭式にて厳粛に斎行する。





祭事暦（10月1日～12月31日）



[10月]

1日～5日 ずいき祭

〈ずいき祭祭礼日程〉

- 1日 神幸祭
 - 午前9時 出御祭 本社
 - 午後1時 行列出発
 - 午後4時 着御祭 御旅所
- 2日 午前10時 八乙女「田舞」「鈴舞」奉納
- 3日 参籠
 - 午後3時 献茶祭 御旅所 表千家宗匠奉仕
 - 甲御供奉饌 御旅所
 - 西ノ京七保会による特殊神饌の奉饌
- 4日 還幸祭
 - 午前10時 出御祭 御旅所
 - 午後1時 行列出発
 - 午後5時 着御祭 本社
- 5日 午後3時半 后宴祭 本社 八乙女「田舞」奉納
- 13日 午後4時 名月祭（豆名月）
- 15日 午前10時 月次祭
- 17日 午前10時 神宮祭
- 午後4時 ずいき祭終了奉告祭
- 20日 参籠
- 21日 午前10時 一條天皇行幸始祭（中祭式）
- 秋季撰末社奉饌
- 25日 午前9時 月次祭
- 午後4時 夕神饌
- 29日 午後2時 余香祭・献詠歌披講式

[11月]

- 1日 午前10時 月首祭
- 3日 午前10時 明治祭
- 午後1時半 北野天満宮講社大祭・曲水の宴
- 15日 午前10時 月次祭
- 22日 参籠
- 23日 午前10時 新嘗祭（大祭式）
- 25日 午前9時 月次祭
- 午後4時 夕神饌
- 26日 午前11時 御茶壺奉献祭・口切式
- 27日 午前10時 撰社和泉殿社例祭
- 30日 午前10時 赤柏祭

[12月]

- 1日 午前9時 月首祭
- 午前10時 献茶祭（堀内長生庵 堀内宗完宗匠ご奉仕）
- 13日 午前8時半 大福梅授与
- 15日 午前10時 月次祭
- 16日 参籠
- 17日 午前9時 御煤払い
- 23日 午前10時 天長祭
- 25日 午前9時 月次祭
- 午後4時 夕神饌
- 28日 午前9時 注連縄飾り
- 31日 参籠
 - 午後4時 大祓式
 - 午後7時 除夜祭
 - 午後7時半 火之御子社鑽火祭
 - 午後10時～午前3時 火縄授与



月釜献茶（11月1日～12月31日）



[11月]

- | | | | | |
|-----|--------|----|----|-------|
| 1日 | 献茶祭保存会 | 今村 | 宗幸 | （明月舎） |
| 13日 | 梅交会 | 横田 | 宗重 | （松向軒） |
| 15日 | 献茶祭保存会 | 木村 | 宗光 | （明月舎） |
| | 松向軒保存会 | 岸本 | 宗綾 | （松向軒） |
| 27日 | 紫芳会 | 中村 | 瑛治 | （松向軒） |

[12月]

- | | | | | |
|-----|--------|----|----|-------|
| 1日 | 献茶祭 | | | |
| 11日 | 梅交会 | 晴 | 風 | 会 |
| 15日 | 献茶祭保存会 | 休 | | 会 |
| | 松向軒保存会 | 金澤 | 宗達 | （松向軒） |
| 27日 | 紫芳会 | 休 | | 会 |



今年の御縁日を締めくくる最後の天神さんは「終い天神」と呼ばれ親しまれている。多くの露店が並び、正月用品を購入する参拝者で終日にぎわう。

十二月二十五日 終い天神



大晦日恒例の祭典。一年間の罪や穢れを託した人形を祓い清め、心身ともに清々しく新年を迎えるための祭り。多くの参列者が訪れる。

大祓式 十二月三十一日

梅風会だより

全国天満宮梅風会 京都府支部総会



九月八日、平成二十八年
度の全国天満
宮梅風会京都
府支部（宇佐
美伸二支部長）
の総会並びに
一日研修が但
馬・出石方面
で行われた。
三十七名（当
宮からは四名）
が参加し、但
馬天満宮での

自由参拝、出石神社での正式参拝の後、豊岡市の会場にて総会を開き、平成二十七年年度の活動報告や役員改選の件が承認された。その後は出石城跡や周辺の散策を各自行い、一同無事に研修を終えた。



ボーイスカウト第八十五団だより

第十二回全国神社スカウト大会



八月六日から九日にかけて、第十二回神社スカウト全国大会が三重県伊勢市にて盛大に開催され、全国六十六団のスカウトと諸外国からの参加も加え、総勢約千五百人が一堂に会した。ボーイスカウト京都第八十五団（本部当宮）からはスカウト・リーダー併せて十一人が参加し、神都伊勢での豊かな自然の中で、プログラムを通して生き生きとした活動に取り組んだ。

神若会だより

天神太鼓会 ホテル日航奈良和太鼓奉納

七月二十八日、ホテル日航奈良で開催された第十回アジア・オセアニア・ロシアなどから集まった約五〇〇人の参加者を前に、一心など五曲を披露した。日本文化の結晶・真髄として披露された太鼓演奏の前に、はじめて聞く参加者たちは大いに熱中し、会場は大盛り上がりとなった。演奏後はアンコールの声が飛び交い、予定外の一曲を演奏し、興奮さめやらぬまま幕を閉じた。



「京炎そでふれ！花風姿」の演舞奉納

御縁日にあわせ、

天神太鼓会ともコラボレーション



毎月二十五日の御縁日恒例の北野天神太鼓会による和太鼓奉納が九月二十五日に行われた。

今回は今夏、「京の七夕」北野御手洗祭で奉納頂いた同志社女子大学の踊り手チーム「京炎そでふれ花風姿」の皆さんも御縁日を盛り上げるべく演舞を奉納し、若さあふれるパフォーマンスを披露。和太鼓と創作演舞との共演が実現した。

また八月二十五日には絵馬所にて「京炎そでふれ花風姿」の奉納演舞も行われ、多くの参拝者を魅了した。



氏子講社だより

北野天満宮氏子講社（宮階有二講社長）の理事会が九月四日午後四時から社務所大広間に講社員多数出席して開かれた。橘宮司の挨拶の後、講社長を始めとする新役員との紹介があり、平成二十七年年度の決算報告を全会一致で了承した。引き続き今年度の主要行事日程の説明が事務局からあり、巡行に当たっての威儀物を担当する学区・講の確認を行った。



花傘会総会



当宮を崇敬する若者を中心となつて構成される神社青年会、北野天神花傘会（井上経和会長）の総会を九月十七日に社務所大広間に開催し、約八十名の参加者が集まつた。ずいき祭で巡行する花傘と担い茶屋の担ぎ手として決意を新たにし、天神信仰と地域の発展のために尽くすことを誓ひ合つた。



「和魂漢才」の碑の覆屋を奉納

天満宮講社理事の相模さん

天満宮講社理事の相模泰造さん（八十歳）が、傘寿を祝つて本殿東側にある「和魂漢才」の碑の覆屋を奉納され、七月十七日午後一時から本殿で奉納奉告祭を斎行した。

妻の温子さんを伴つて奉告祭に臨まれた相模さんは「生後一カ月の宮参りが北野天満宮でした。八十年経つた傘寿の祝いに和魂漢才の碑の覆屋を奉納させてもらうことができ、感謝無量です」と話されていた。



正式参拝された皆様（敬称略）（七月～九月）

七月 十三日（水） 栄小学校同期会
七月 二十一日（木） 神道政治連盟
七月 二十二日（金） 京都女子神職会
八月 二十四日（水） 神社本庁教誨師研究会
九月 十三日（火） 日蓮宗布教院
九月 二十二日（木） 弘前大学人文社会科学部
九月 二十五日（日） 渚大神社

挙式された皆様（七月～九月）

七月 二十三日（土） 宇野 元浩・梢 ご夫妻
九月 十日（土） 前田 竜志・美沙 ご夫妻
九月 十八日（日） 戸田 侑紀・唯 ご夫妻
九月 十八日（日） 村瀬 智哉・美帆 ご夫妻
九月 二十二日（木） 藤田 和也・さい子 ご夫妻
新郎新婦様、御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

天神さん 思い出写真館



昭和二十七年春斎行の千五十年大萬燈祭での一枚である。奉祝祭として本殿で「勧学大祭」があり、その際、八乙女舞と人長舞が奉納されているが、この写真は八乙女舞の奉納風景である。参列した多くの人たちが八乙女舞に見入っている。手前の方には多くの子どもたちの姿が見られ、学業の向上を目指して多くの子どもたちが参列したことがうかがえる。

勧学大祭といえば、昨年、この祭典になぞって六十三年ぶりに再興された「学業大祭」の原型であり、今年の大祭の模様は十八ページに掲載されているので見比べていただきたい。

昭和二十七年といえは戦後まだ七年。復興への槌音が一段と高まったころ。千五十年祭斎行の趣



意書にも「戦後終わり幾年も経たざれば人の心荒び、国の姿また混沌の世にあれば天神信仰の昂揚こそ祖国復興の急務なり」と書かれている。この「勧学大祭」に臨んだ参列者の思いも恐らく同じだったであろう。

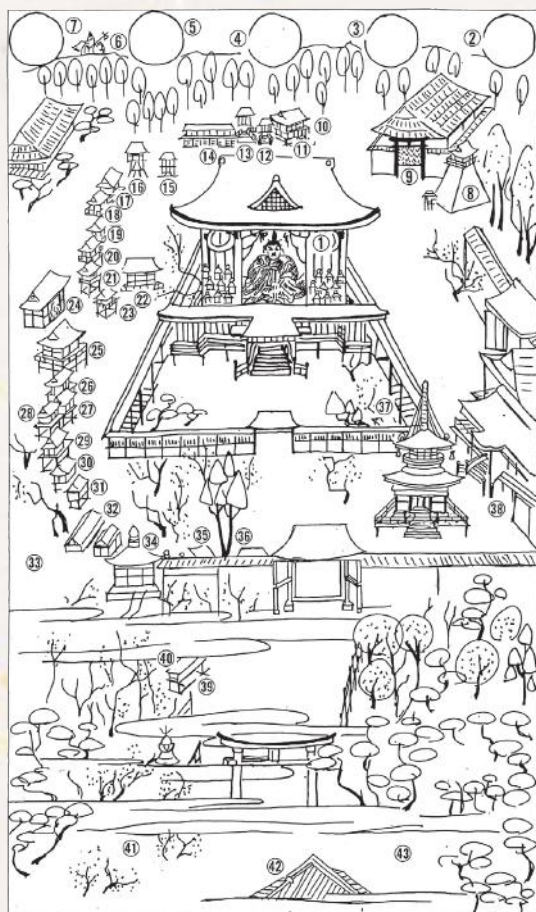
「社頭古絵図」に描かれた境内

応永一四年（一四〇七）に筆録された「神変霊応記」という書物に当時「宮めぐり」と呼ばれた北野社の参詣作法が記されている。参詣者は、東門から境内に入り、三所皇子、貴船、老松、後戸舎利、十二所、福部、十禅師、尼神、御霊、早鳥、今尾、火神子、朝日堂、那伊鎌、毘沙門堂、一拳、新経蔵、周枳明神、如法塔、一位殿、従一位殿、三位殿、一夜松、御池、大判事、二本杉、南大門外夷、三郎殿、松童、門内御塔、法花堂、白太夫、そして本殿と参拝した。ただし大臣以上はまず正面、日常参る人は逆順としている。

この「宮めぐり」の順を念頭に、「社頭古絵図」

に書かれた文字注記をみていくとほぼ両者は対応する。下図は、「社頭古絵図」の線描画であり、①から④③の番号は、墨書の文字注記に対応している。また表1は、線描画の○数字に対応したものである。右端の欄の「寛」は寛文八年（一六六八）当時、「現」には現状との比較を略記しておいた。◎は現状と変化なし、○は相殿になったもの、△は位置の変化したもの、一は比較の対象とならないものである。⑧②②④②⑤③④③⑥等は、明治維新期の神仏分離の過程で姿を消した。⑮⑮②②②に⑫はそれぞれ単独の社であったものが、寛文八年（一六六八）の造替にあたって、それらに荒神を加えて一棟となった。また②③②⑥②⑦②⑨⑮③①も同じ時に大判事殿を加え一棟となる。

今回は、紙幅が限られているので、「社頭古絵図」の文字注記のみの紹介とし、次回以降にその内容や読み方について述べていきたい。



「社頭古絵図」線描画

No.	文字注記	寛	現	No.	文字注記	寛	現	No.	文字注記	寛	現
①	天満大自在天神	○	○		五文大夫	◎	◎	②⑤	心経座	×	×
②	不動	—	—		六淡路廃帝	◎	△	②⑥	周枳明神 千手	○	○
③	金輪	—	—		七大式広継	◎	△	②⑦	一拳 不動	○	○
④	柴師	—	—		八老松	◎	◎	②⑧	大歳八所	—	—
⑤	天上星	—	—		九白大夫□□	◎	◎	②⑨	一位殿 仏眼	○	△
⑥	愛染明王	—	—		十桜葉	◎	◎	③⑩	二位殿 金輪	○	△
⑦	慈恵大師	—	—		十一吉備大臣	◎	◎	③⑪	三位殿	○	○
⑧	鐘楼	◎	×		十二崇道天皇	◎	◎	③⑫	一夜松 毘沙門	◎	◎
⑨	竈殿	○	×		以上十二所	◎	◎	③⑬	御池	◎	×
⑩	一所阿弥陀	×	×	⑮	福部 毘沙門	○	○	③⑭	輪蔵	◎	×
	二所観音	×	×	⑮	十禅寺 地蔵	◎	△	③⑮	礼拝殿 若松 章基	×	×
	三所王子	◎	△	⑮	尼神	○	○	③⑯	花経蔵	×	×
⑪	飛梅	—	—	⑮	御霊	○	○	③⑰	白大夫 毘沙門観音	◎	△
⑫	貴船 不動	△	△	⑮	早鳥 多聞天	○	○	③⑱	法花堂	◎	×
⑬	老松 不動	○	△	⑮	今尾 吉祥天	○	○	③⑲	西宮殿 毘沙門	△	△
⑭	一殿官算入寺	◎	△	⑮	火御子 降三世	◎	△	④⑩	松童八幡 弥陀	△	△
	二殿大門内供奉	◎	◎	⑮	朝日寺 聖観音	◎	×	④⑪	毎月連歌会所	◎	×
	三々橘逸勢	◎	◎	⑮	那伊鎌 遍照如来	○	○	④⑫	経堂	◎	×
	四々藤大夫	◎	◎	⑮	毘沙門堂	○	○	④⑬	雪見岡	◎	△

表1 文字注記一覧



新年御祝 大福梅と縁起物の授与



◆頒布開始 十二月十三日(火) 午前八時半より
◆初穂料 大福梅 七〇〇円
祝 箸 二〇〇円
屠 蘇 五〇〇円
清め塩 一〇〇円
守護縄 五〇〇円
縁起物詰合せ 三〇〇円
(但し、無くなり次第頒布終了)

元旦の祝膳に使われる「大福梅」と新年縁起物の授与が、今年も事始めの十二月十三日から始まる。「大福梅」は元旦に招福息災の祈りを込め、白湯の中に入れて頂く縁起物。平安時代、都に疫病が流行し、病に罹った帝自らも梅干し入りのお茶を飲み、たちどころに平癒されたとの故事により、以来庶民もこれに倣い正月元旦に梅茶を飲み、一年の無病息災と長寿幸福を願ったと伝わる今日に続く信仰である。また祝箸・屠蘇・清め塩・守護縄といった新年縁起物も事始めより併せて頒布し、縁起物の詰合せも授与する。



梅の枝「思いのまま」

元旦から授与

◆頒布開始 平成二十九年元旦より
◆初穂料 一本一〇〇〇円
(但し、無くなり次第頒布終了)

千五十年大萬燈祭(昭和二十七年)の初天神で参拝者に授与していた経緯より、約六十年ぶりに授与を復活させた招福の梅の枝「おもいのまま」。

「おもいのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。



御縁日 境内ライトアップ



毎月25日は天神さんの御縁日。夜9時まで境内特別ライトアップ!

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円(1年分) 季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。平安京の大極殿(遷都より600年の間)は今の京都御所の西にありました。紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京 (大内裏)
- 大極殿 (室町時代迄の平安京)
- 京都御所 (室町時代以降)

